

ボヴァリー夫人 (1991)

MADAME BOVARY

メディア 映画

ジャンル ドラマ 文芸

製作国 フランス

色彩 Color

時間 140分

初公開日 1992/05/02

公開情報 K U Z U I

【キャッチコピー】

ボヴァリー夫人、それはあなただ。

【解説】

かつてトーキー初期にジャン・ルノワールが、そして米国ではヴィンセント・ミネリが映画化したフロベールの不朽の名作が、C・シャブロールの手で新たに蘇る……筈だった。もちろん、ユペールは健闘しているし、美術も撮影も実にこまやかな仕事ぶりだ。だが、どこか感情のうねりといったものに欠ける。ロマンスや美的なものを愛する主人公エマの執着が波瀾に充ちた日々を招くのだが、これはむしろトリュフォー向けの素材であった。自然主義文学の映画化であっても、映画である以上、ロマン的昂揚は必要だし、現に原作の核となるのもエマのそうした“物語”志向だ。映画はこのあたりを充分に見つめる部分が足りないから、彼女を突き放す客観性も活きないのである。ようするに、甘ちゃんでもいい所は本気で甘ちゃんにして、我々をもっと酔わせねばダメなのだ。

【クレジット】

監督	クロード・シャブロール	Claude Chabrol
製作	マラン・カルミッツ	Marin Karmitz
原作	ギュスターヴ・フローベール	Gustave Flaubert
脚本	クロード・シャブロール	Claude Chabrol
撮影	ジャン・ラビエ	Jean Rabier
音楽	マチュー・シャブロール	Matthieu Chabrol
出演	イザベル・ユペール	Isabelle Huppert
	ジャン＝フランソワ・バルメ	Jean-Francois Balmer
	クリストフ・マラヴォワ	Christophe Malavoy
	トマ・シャブロール	Thomas Chabrol